

若者たちが輝く場所を



神殿でのお供え演奏を終えた芦津鼓笛バンドのメンバーとスタッフ

鼓笛オンパレードでは今年も金賞を受賞した

真明

発行所
天理教芦津大教会
〒546-0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06 (6702) 1980
FAX 06 (6700) 1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所 天理時報社

若い者寄り来る処厄介、世界から見れば
厄介。なれど道から厄介ではない。道か
ら十分大切。

明治26年6月19日 おさしづ

おぢばの夏は「こどもおぢばがえり」や「学生生徒修養会・高校の部」が開催され、若者に信仰を伝える絶好の季節です。しかし中学生、高校生はクラブ活動や習い事も多く、しかも多感な時期なので、教会から足が遠のいてしまいがちです。どうやって教会に来てもらうか、どうやって信仰の喜びを伝えればいいのか、大いに悩むところでもあります。

そんなときに頼りになるのが、同じ道を通る仲間が存在です。学生たちは行事や活動の内容よりも、「誰が来るのか」「誰と一緒に過ごすのか」を重要視します。同じ信仰をもった若者同士が手を携え、楽しみながら教えを実行する学生会の活動は、若者たちが信仰を実践する場であると同時に、同じ教えを学ぶ、生涯の仲間をつくる貴重な場でもあるのです。

若者をこの道に導くために大切なことは、「教会に行けばあの人がいる」「このひのきしんができる」と、彼らが輝く場所をつくること。知識や情報、経験も必要ですが、普段から若者の居場所を大切にすることを心掛け、これからも熱心に声を掛け続けましょう。

正面方加

子供がよく転ぶのは体の未発達によるバランスの問題に加えて、脊髄反射の未発達が最大の理由で、大人

はとっさに足や手を出せるが、小さな子供は、脳からの指令が筋肉に届くまで時間がかかり反射が追い付かず転んでしまう。

その鍵は「ミエリン」という物質で、神経に刺激を与えるほどミエリンは太く発達し伝達スピードが速くなる。転んで、また立ち上がってという「たくさんさんの刺激」が脊髄反射を鍛え、子供は転びながら進化している。

信仰も時々「ふし」をお見せいただくが、運命切り替えに必要な刺激を頂戴し、また立ち上がってと成人の歩みが進んでいく。

(山)

《7月月次祭 挨拶》

教祖は遙かブラジルにまでも
おたすけに出張ってください

大教会長 井筒梅夫

皆様方には、日頃からたすけ一条の御用の上にご丹精くださいまして、誠にありがとうございます。また、今日は大変暑い中を足を運んでくださり、只今7月の月次祭を滞りなく勇んで勤めさせていただきましたことは、大変ありがたい次第でございます。

さて、今月は真伯教会の創立30周年記念祭と、二代会長就任奉告祭を勤めるために、ブラジルへ巡教に向いてきました。10年ぶりのブラジルは感慨深いものでありました。

ブラジルに行つて実感するのは、やはりおぢばの存在です。私たち日本に住む者は、おたすけにかかる際に、その祈願におぢばへ帰ることがありますが、ブラジルの教友には簡単には叶いません。ましてや何かあったときに、飛んで帰ることなどできるものではありません。日本国内でも遠い近いはありますが、その気になればすぐにでもおぢばに帰ることができます。いつでもおぢばに帰らせていただけるありがたさを、もっと感じなければ申し訳ないと思うのです。

ブラジル伝道庁に参拝した折に、伝道庁長さんから、今年は教祖百四十年祭の年として、「こどもおぢばがえり」や「青年会インターナショナルのきしん隊」をはじめとして、この夏に400名以上の方がおぢばに帰参されると聞かせてもらいました。それも、

その一人ひとりや家族が、旅費と時間の工面に、苦心に苦心を重ねての帰参になります。おぢばから一番遠い国だからこそ、おぢばに寄せる思いも人一倍深いのかもしれません。私たちは、いつでもおぢばに帰らせていただける喜びを噛み締めて、おぢばへの思いを深めて足を運び、真心を尽くす信仰をしっかり持たせていただきたいと、改めて感じた今回のブラジル巡教でした。

ところで、今回はブラジルで度々とおさづけを取り次ぐ機会を得ました。そのうちの一人、岡本公夫前会長さんの兄である伸造さんは1月に肺炎を患ったのですが、その後遺症でしょっちゅう咳が出る。殊につらいのが、夜中に何度もひどい咳が出て、十分に眠れないことでした。月次祭の祭典後、おさづけをお取り次ぎした際に、「3年後の大教会の記念祭と奉告祭にぜひ帰ってきてください」と伝えたのです。それから朝づとめ後に取り次ぎしましたが、ある日のお取り次ぎを済ませたときに「今までは夜中に何度も咳で目が覚めていましたが、昨夜は1回だけで済みました」と仰られ、翌朝には「昨夜はぐっすりと休めました」と、大変喜んでくださいました。それから昼はたまに咳が出るようですが、一番の悩みであった夜中の咳き込みがピタリと止まって、安眠の御守護を頂かれたのです。

実はこのとき、3年後の記念祭・奉告祭に帰る心を定めておられたのです。御守護を頂けるだけの裏付けがちゃんとあったのです。これは、おさづけと心定めで頂いた御守護です。おさづけの取り次ぎで頂戴する御守護は、教祖存命の理のお働きの賜物です。教祖は存命の理をもつて、遙かブラジルにまでも、おたすけに出張ってくださいているのです。心通りの守護と教えられる親神様のお働きは、地球の裏側であろうがどこであろうが、寸分の狂い

もなく頂戴できる御守護です。

お道の信仰は、親心を信じ、御守護を信じて、そして親心と御守護にもたれて通る信仰です。この道を歩むお互いは、親神様にもたれきって、どこまでも教祖のお供をさせていただいて、心勇んでたすけ一条の道に励ませていただきたいと思っています。

今月の27日から「こどもおちばがえり」が始まります。その後には、「学生生徒修養会・高校の部」が控えています。夏は縦の伝道、子弟育成の季節だとよく言いますが、それは夏休みがあつて、普段よりも子供と会話をする機会が増えるゆえのことだと思っています。これを良き機会と捉えて、私たちが普段から感じている信仰の喜びを、子供や孫たちにも感じてもらえるように、しっかりと心を配っていただきたいと思っています。8月の月次祭は、親子参拝を奨励していますから、どうぞお子さんやお孫さんを連れて、ご参拝をしていただきたいと思っています。

併せて、来月の月次祭は、本部布教部次長の村田幸喜先生に、布教講話として神殿講話を務めていただきます。村田先生は、本部直属・満州眞勇分教会長として、にをいがけに大いに励まれている布教師でもあります。お道の信仰は勇みが肝心です。勇むためには勇んだ環境に身を置くことが最適だと思います。周囲が不足ばかりでいずんでいる中で、自分だけが勇むのは難しいことですし、逆に我が心まで沈んでしまいかねません。勇んだお話を聞くことも、勇んだ環境に身を置く術の一つであると思います。特に9月は「にをいがけ強調の月」ですから、にをいがけの勇みの種になるのではないかと期待をしているところです。

どうか来月の月次祭も声を掛け合つて、ご参拝してください。とをお願いして、月次祭の挨拶とさせていただきます。(要約)

立教百八十九年 七月 月次祭 祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様には陽気ぐらしを楽しみにこの世と人間をお創り下されてよりこの方、日夜絶え間なくお見守り下され、お慈しみのまに／＼成人の道へとお導き下さいます親心の程は、誠に有り難く勿体無い極みでございます。私共は、感謝の心を忘れることなく、日々御恩報じに励ませて頂いておりますが、その中にも今日の吉日は、おちばよりこれの教会にお許しを頂きました芽出度き日柄でございますので、只今から役目にあずかる者一同、心を揃え、座りづとめ、十二下りのてをどりを心陽気に勤めて、七月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には、折柄の暑さをも厭わず参らせて頂きました芦津の道の子達が、日頃の御厚恩に御礼申し上げ、おたすけの心を添えて、共につとめに勇む状をも御照覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて、この月の二十七日より来月の三日まで、恒例のこどもおちばがえりが開催されます。夏の親里を楽しみに、少年会員達にをいをかけ合い誘い合つて参加させて頂きますが、この子供達の上に、尊きおちばのお徳を賜りまして、素直に明るく成長させて頂き、立派なようべくへとお育て下さいますよう、又、期間中、万事恙なく順調に運ばせて頂きますようお連れ通りの程をお願い申し上げます。なお又、引き続き、学生生徒修養会・高校の部が開催されますが、こうした育成活動を積極的に活用して、教会長、ようべく子弟の育成に、根気よく取り組ませて頂く所存でございますれば、かかる上にも温かき親心を以てお導き下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

私共をはじめ、芦津に繋がる教会長、ようべくは、道の将来を担う人材の育成は申すまでもなく、まずは自らが育つ努力を重ねて、老いも若きも、たすけ一条の道の御用にお役に立てるようべくへと成人させて頂けるように、皆が心を尽くして丹精をさせて頂く所存でございます。

何卒、親神様には大らかな御心に一同の成人をお見守り下さいまして、一人ひとりが陽気普請のようべくとして、たすけ一条に心勇んで働かせて頂けますようお連れ通りの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《7月月次祭 神殿講話》

次の塚への歩み出しの句 機を逃さぬおたすけを

役員 瀧本庄司

先日、真伯教会の教会創立30周年、二代会長の会長就任奉告祭に私もお手伝いに行かせていただきました。

真実なら神が受け取る

私は31年前、ブラジルに青年として派遣していただいたとき、岡本公夫前会長さんのおたすけを間近で見させていただきました。誰かが身上だと聞くと何をおいてもすぐにどこまでも行かれ、貧民街にも臆することなく、家族も接触しながらない感染症の方のおたすけにマスクもなしで行かれたり、その初代会長さんの通り方を私は今でも手本とさせていただいています。

今回ブラジルに行き、その当時学んだたくさんの方のことを改めて思

い出し、お礼の思いでお手伝いをさせていただきました。

この1月に教祖百四十年祭を勤め終え、大教会長様は次の塚に向けての歩み出しとして、外に向けてにいがけ、おたすけに励んでいたきたいとお話しくださいました。

1年前の5月のことです。自教会の役員さんが、「息子の友達で小学校3年生のJ君が学校で心肺停止になり、病院へ運ばれ、心肺蘇生はしたものの、意識が戻らない。会長さん、おたすけに行ってもらえますか」と言われたので、早速その役員さんと一緒におたすけに

行かせてもらいました。

その両親は未信者の方だったの
で、かしの・かりものの話をし、
おさづけのお取り次ぎをしました。
そこにいたお母さんは、懸命にお
さづけを取り次ぐ姿を見て喜んで
くれました。それから、繋がり
のある人で交替でおたすけに通い
ましたが、一向に意識は戻りません。
そして、昨年に意識が戻らな
いまま、家から近い病院に転院し
ました。その病院は親以外面会禁
止でしたので、おたすけに行けな
くなり、教会でお願いづとめをさ
せていただくことしかできません。

そこで意を決して、両親を教会
に呼び、神様の前でお話をさせて
いただきました。「病には、根っ
こがあつて、私が取り次いでいた
おさづけは、その病の根を一本一
本切っていました。でも、転院し
ておさづけを取り次ぐことができ
なくなりました。そこでお2人に
は、私に代わっておさづけのお取
り次ぎをしてもらいたいです。
そのためには、おちばに行つて別

席という神様の話を毎月1回、計
9回聞かせていただかなければな
りません。一緒におちばに行つて
くれませんか」とお願いをしまし
た。すると、ご両親は「分かりま
した」と言ってくれ、この1月か
ら別席を運び始めてくれました。
別席を運び始めると、お母さん
が毎朝息子の病院に行く前に教会
で参拝するようになり、その姿を
見て、今度は中学1年生のお兄ち
ゃんが夕づとめに参拝に来るよう
になったのです。

そして次は、「ひのきしん」につ
いて話をする、翌日からお母さ
んが毎日教会の玄関掃除を始め、
お兄ちゃんも登校前に参拝後、草
抜きをするようになったのです。

そんな懸命な姿を見て、私は逸
話篇の16「子供が親のために」と
いうお話を思い出しました。

お母さんの身上をたすけて欲し
いと2度も教祖に「気の毒やけれ
ども、救からん」と言われたのに、
お母さんの姿を見るとじっとして
いらなくなり、5kmの道のりを

教祖の所へお願いにあがったので
す。すると教祖は、

「救からんものを、なんでもと
言うて、子供が、親のために運
ぶ心、これ真実やがな。真実な
ら神が受け取る。」

と仰せくだされ、お母さんはたす
かったのです。

この逸話篇をお母さんの前で読
み、「あなたたち親子の姿は、真実
の姿です。必ず御守護いただける
よ」と言うとお母さんは「本当に
奇跡が起こるような気がします」
と言い、病院に向かいました。

すると夕方、お母さんが教会に
来て、「脳波に反応する necom



imi (以下、ネコミミ) という
器具があり、それを去年頭に付け
たのですが、何回やっても無反応
でした。今日、久しぶりにネコミ
ミを付けて『J、お母さんだよ』
という、今まで動いたこともな
かったネコミミが反応しました。
奇跡が起きたのです」と話してく
れました。嬉しくて私も胸が熱く
なりました。

その翌日、教会の月次祭でした。
お母さんが朝来てひのきしんをし
て病院に行こうとしたので、「今日
は月次祭といって、月に一度、世
界たすけのおつとめを勤める大切
な日です。参拝してもらえません
か？」と言うと、「病院に行くのを
遅らせます」といって、初めて月
次祭にも参拝してくれ、祭典が終
わってから病院に向かわれました。
するとその日の夕方教会に來
て、「今日もネコミミをつけて、『お
母さん好き?』と聞くと、ニヤー
ってそのネコミミが鳴いたんです。
脳波の反応があると鳴く仕組みに
なっているのです」と伝えてくれ

ました。月次祭の日に教会が感動
の渦に包まれました。

そして、J君が倒れて1年が経
った日、改めてお母さんに神殿で
話をさせてもらいました。「お母
さん、先日ネコミミが反応して私
も感激したけれど、実は倒れてか
ら1年、本当なら命が無いところ
を、命を繋いでくださってる。そ
のことをまず家族で喜ばせてもら
いましょう。今の状態が奇跡です。
それを家族で毎日喜ばせてもらっ
たらその先に、また大きな喜びを
見せてくださるはずですよ」と話を
しました。

そして私がブラジルから戻った
翌日、教会の月次祭にお母さんが
来られて、指がピクツと動いたと、
更なる奇跡の報告があり、皆で喜
ばせてもらいました。

考えてみると、指がピクツと動
いただけで、こんなにも喜べるの
です。それに比べて私たちは、指
どころか、身体も自由に動き、毎
朝目覚めることができています。
これを喜ばずに何を喜ぶのですよ

う。その両親も9月にはようばく
になります。今から両親がJ君に
おさづけを取り次ぐ日が楽しみで
仕方ありません。

御恩を御恩と感じられる心に

今から15年前のことです。

大阪に住む信仰熱心で真面目な
婦人Tさんがおられます。そのT
さんが重度の糖尿病を患い、これ
以上悪くなると失明したり、両足
切断の可能性もあると宣告されま
した。

私はおたすけに行き、「どんな中
でも喜ばせてもらおう」と話しま
したが、「喜びたいけどこんな身上
でどうして喜べるのか」と、Tさ
んは不足ばかりしていました。

そうして1年が経ったある日、
Tさんの旦那さんから「とうとう
失明して明日から入院治療するこ
とになりました」と連絡があり、
翌日かんろだいのお下りの饅頭
を持って病院へ走りしました。

そして病室に行き、私が、「かん
ろだいのお下がりをここに置いて

「おきますね」と言うと、Tさんは、「ありがとうございます。そのお下がりは何ですか?」というので「お饅頭です」というと黙り込んでしまいました。

そしておさづけを取り次ぐとすると、Tさんが「私は医者から、糖尿病で失明した目は二度と戻ることはないと言われました。会長さんはどんな中也喜べと言いますが、失明したら喜ぶことは無理です。それと糖尿病の私にお饅頭を持ってきましたね。そのデリカシの無いところが許せないです」と、そのあと不足を30分くらい言い続けました。

そして言い終わったら「スッキリした。どうぞおさづけを取り次いでください」と言うので、私からも話をしました。

「まず、お饅頭はかんろだいのお下がりです。おちばの理を運ばせてもらったのです。それと、全然喜べていないみたいやけど、かなり重度の糖尿病やから、本当ならすでに命はなくてもおかしくな

いところを生きている。足も切斷してないから歩ける、ご飯も食べられる、旦那さんや息子とも話ができる。まだ探せば喜べることはいっぱいあるでしょう。

一つお願いがあります。これから食事のたびに『ご飯が食べられる。ありがとうございます』旦那さんや、息子さんが面会にきたら、『声が聞ける。ありがとうございます』明日の朝起きたら、『今日も生かせてもらってる。ありがとうございます』と、最初は嘘でもいいから、口に出してお礼を言うてください」とお願いしました。

そして「分かりました。約束は守ります」と言って、おさづけを取り次いで帰りました。

そして翌日の夕方、周宝分教会長夫人から電話がかかってきて、「今日昼にTさんから、病院におたすけに来て欲しいっていうから行ってきたん」と泣きながら話をしてくれました。

内容は、私が帰ってから、とにかく喜びを探そうと頑張った。夕

飯を食べながら「ご飯が食べられる。ありがたい」と嘘でもいいからと言われて、無理に思おうとしただけど、すぐにありがたくて、涙が出てきた。面会に来た旦那さんや息子さんと話をしても、「息子の声が聞こえる。ありがたい」と。そして次の日起きると、「まだ生きている。ありがたい」とベッドでありがたくてわんわん泣いたそうです。

そして朝の主治医の往診があったとき、隣のベッドの女性と先生との「もうすぐ退院だから、退院したら何でも食べられますね」「私ね、退院したらあんこが食べたい」という話が聞こえてきたそうです。それを聞いたTさんは「会長が持ってきたお下がりを渡しておたすけしよう」と思ったそうです。

そしてお下がりを持って、隣の女性の所に行き、「私は天理教の者です。これは神様のお下がりです。頂いてください。そして神様にお願いをさせてください」と言うと、隣の女性は「お願いします」と言

うので、おさづけを取り次いでいると真つ暗闇だったのが、少し光が差してきた。おさづけを取り次ぎながら涙が出てきたそうです。隣の女性が、「どうして泣いているのですか?」と尋ねられたので、「目が見えず真つ暗闇だったので、お願いをしている最中に光が差してきたんです。天理教では人たすけて我が身たすかると教えられています。あなたのために神様にお願いをして、私がつかったのです。ありがとうございます」と。

あまりにも嬉しくて、周宝の奥さんと呼んで、「昨日会長さんの話を聞いたときは、不足だらけだったけど、喜びを探すと喜びだらけで本当に生まれかわった気がした。御礼に全財産がカバンの中にあるので、それを全部会長さんに渡してほしい」とお金を渡した瞬間、目がサーっと見えるようになったというのです。

糖尿病で失明したら治らないと言われたのに、目が見えるようになりました。これはもう奇跡です。

そして2年ほど前に、話をさせてもらう御守護話は、ほとんどが会長になってから7、8年の間に

皆様方には、次の塚に向けての歩み出しの旬に、機を逃さぬおたすけをお願いします、本日の私の務めいたします。

(要旨)

七月月次祭										祭典役割	
祭主		扨者		扨者		てをどり		地方		ちやんぼん笛	
大教会長		山本義範		座りつとめ		大教会長 守田清一 川畑澄博 会長夫人 前会長夫人 奥田富美子		井筒敏成 井筒文夫 山田道弘		奥田正徳 今川政治 湯川正男 岡島秀男 岩切正義	
指図方		賛者		前		岩切正教 竹内義忠 梶川和隆 岩切孝子 竹内淳子 梶川りよ子		蓼内宣浩 浜田俊和 中村俊和		樋川泰士 吉田裕和 木村真次 西本義之 石川健郎 立花善三	
瀧本眞二郎		花岡忠和		後半		岡本久昭 川畑正博 梶川和人 奥田千晶 湯川照代 花岡由紀子		奥田正儀 西本興正 宗我道明		瀧本亘 梶川芳征 望月慶太 梶川芳征 宗我道明 北村浩 佐藤幸 水田敏 大田秀 段野直	
守田清一		伝供		瀧本庄司		奥田俊和 中田宣郎 奥田俊和 奥田俊和 奥田俊和 奥田俊和 奥田俊和		湯川正信 湯川正信 湯川正信 湯川正信 湯川正信 湯川正信 湯川正信		梶川和 梶川和 梶川和 梶川和 梶川和 梶川和 梶川和	

立教189年 こどもおぢばがえり

真夏のおぢばに

子供たちの笑顔と喜び溢れる

7月27日から8月3日まで、おぢばで「こどもおぢばがえり」が開催され、連日40度近くの猛暑日が続いたが、日本全国、また海外からも大勢帰参し、おぢばは子供たちの笑顔と喜びで溢れた。

天理教少年会は、今年創立60周年の節目の年を迎えた。少年会芦津団（加世田洋団長）は、少年会

本部の「創立の思いを心に治め、



先を楽しみに、道の子を育てる取り組みを前進させよう」の活動方針のもと、全教会からの帰参を目指し、各教会に積極的な帰参を呼び掛けた。また今年は総務ひのきしんを再開し、在籍者が日替わりで詰所での受け入れひのきしんにあたった。

詰所には今年も「ようこそおぢばへ」「おかえりなさい！」「こどもおぢばがえり」の3つの横断幕を掲げて帰参者を迎え、期間中は、毎朝ラジオ体操を行い、夜には芦津団独自のお楽しみ行事を実施した。

「あしつ広場」では、ボールプールやツイスターゲーム、ピッキーおとしなど、さまざまなゲームで少年会を楽しませ、2階大広間では、今年もお化け屋敷を開催。例年にも増して怖くなった会場内からは、子供たちの悲鳴が響

き渡った。夜のお楽しみ行事には、在籍者、青年会、修養科生もひのきしんに励んだ。

さらには、新しく1階ホールに手作りのカブトムシ小屋を設置し、帰参した子供たちはカブトムシやクワガタに目を輝かせた。

1階事務所前では、学生会がかき氷、ポップコーンの販売を行い、大勢の子供たちが賑わいを見せた。

また大教会長からのお土産として、自由に絵の描けるミニトートバッグを少年会員に配布した。

初めてこどもおぢばがえりに参加したある隊の育成会員は、「初めてのおぢばで、たくさんの方々の



『ようこそおかえり』という言葉聞いて、笑顔で迎えてくれたことにすごく感動しました。これだけたくさんの方が関わる大きな行事、規模に驚きましたが、歴史あるこどもおぢばがえりに参加できてよかったです。また来年も帰ってきます」と笑顔で話した。

芦津からは、103隊、少年会員639名（内、わかぎ104名、初参加者130名）育成会員475名、合わせて1千114名が帰参した。

なお芦津鼓笛バンドは、8月2日の鼓笛オンパレードに出演し、41年連続の金賞を受賞した。

インターナショナル

ひのきしん隊

青年会本部主催の「第12回インターナショナルひのきしん隊」が、7月18日から24日にかけて、親里で実施された。

インターナショナルひのきしん隊は、3年に一度、海外在住の青年会員を対象に結成される特別隊である。教祖百四十年祭の年にあたる今回は、アメリカ、ブラジル、韓国、台湾など12の国や地域から、通常入隊180人、一日入隊15人、家族入隊73人の計268人が参加。心を合わせてひのきしんに励んだ。

期間中は、ひのきしんだけでなく、交流プログラムも行われ、参加者同士が言葉や文化の違いを越えて親睦を深めた。共に教祖のひながたを慕い、たすけ一条の心で繋がった1週間は、笑顔と感動に溢れる熱いインターナショナルひのきしん隊となった。

芦津からは、台湾・真明真管教会の陳彦彰さん、謝鎮遠さんの2

名が入隊。第百母屋で合宿生活を送りながら、境内地ひのきしんをはじめ、こどもおぢばがえりの設営ひのきしんなどに従事し、猛暑の中、おぢばで心を込めて汗を流した。



陳彦彰さん（左）と謝鎮遠さん（右）
この日は神殿北側大裏での農作業に汗を流した

にをいがけ強調の月

例年9月は「にをいがけ強調の月」として、お道に繋がるお互いが布教に励む期間となっている。

今年は本部布教部より、全ての教会長の布教実動を目指して、9

月1日から7日までを「教会長布教実動週間」と定め、活発な布教実動を推し進めることが発表された。また9月28日から30日までの3日間を「全教一斉にをいがけデー」として、同じ地域に住むようばく・信者が、お道のにをいを広めるために活動する。

こうした本部の動きを受け、大教会布教部（竹内義忠部長）は、芦津大教会の9月の動きとして、

①全教会が9月月次祭の日に
にをいがけを

②1人のようばくが3枚のリー
フレットを手渡そう

③大教会毎日神名流し
を提唱。また、その後押しとして

ポスターを作成し、「実動報告書」と共に全教会に配布した。

9月はまず、「教会長布教実動週間」や大教会での毎日神名流しなど、教会長が率先して実動すること、ようばく・信者に勇んだ姿を映していく。

「にをいがけ強調の月」

信仰の喜びを伝えよう

9月1日～30日

○1日～7日 教会長布教実動週間

○28日～30日 全教一斉にをいがけデー

●全教会が9月月次祭の日に にをいがけを

●1人のようばくが 3枚のリーフレットを手渡そう

●大教会 毎日神名流し

8月23日 布教講話 本師 村田幸喜 先生
大教会月次祭 ※祭典後、にをいがけを行います

そして全教会でのにをいがけ実動や「全教一斉にをいがけデー」で、多くの人が布教を実践することを目指す。

竹内部長は、「この活動の目的は、布教ができる人を増やすことにある。一人でも多くの方がにをいがけに励み、信仰の喜びを伝えることの大切さを実感できるよう、全ての教会が『にをいがけ強調の月』に相応しい活発な布教活動をお願いしたい。布教部では、多くの方が布教経験を積み重ね、自信を深めて、積極的に布教ができるようばくへと成人できるよう、今後さまざまな形で布教活動を推し進めていく」と意気込みを語った。

教務部報

教養掛 (7月)

主任

花岡 忠和

教養掛

梶川 和人・奥田 千晶

教人登録

川畑 沙織 (始 良)

立教189年6月5日

おさづけの理拝戴《6月》

高橋 好博 (鎮 名)

岩切富美恵 (島 原)

〈拝戴日順 2名〉

初席《6月》

〈2名〉 美和名、太美

〈1名〉 有家

〈順序運びより 5名〉

芦津大教会公式

Instagram開設

大教会行事の告知や行事の様子などをお届けします。ご活用いただきますよう、お願いします。



@TENRIKYO_ASHITSU

さあ、ひのきしん！ 大教会へ伏せ込もう！

大教会外壁改修工事ふしん 9月1日より実施

時 間 午前9時～午後4時

内 容 仮囲い、外壁の設置作業

※進捗状況により作業内容が変わる場合があります

申し込み方法

①大教会・河合まで直接連絡

②右記の二次元コードより

「ひのきしん申し込みフォーム」
から申し込み

詳細は、大教会・河合までお問い合わせください

第31回 女子青年大会

友達誘って おやさどぢばへ

～ 伝えよう 私たちから み教えを ～

11月1日(日)

午前10時
本部中庭

月例統計 (自令和8年1月1日～至令和8年6月30日)

項 目 名 称 () 内教会数	初 席	の お 理 さ 拝 づ 戴 け	修 養 科 修 了	教 人
大 教 会 (1)	1	1		
東 津 (13)				3
吉 野 川 (29)	6	2	2	
島 原 (16)	1	1		
日 方 (15)	3	3		
稗 島 (7)	1	1		
本 津 (2)				
日 高 (2)				
始 良 (5)				1
津 和 (12)				
門 司 (6)		1	3	1
當 別 (6)	3			
大 島 (26)	6	5	2	2
沖 縄 (3)				
尼 崎 (2)	2	1		
四 ツ 山 (5)	2			
大 冠 (2)				
島 下 (1)				
天 保 山 (3)				
青 木 (1)				
芦 浪 (1)				
甲 邊 (1)				
芦 華 (1)	1			
天 津 (1)				
入 江 (1)				
豊 野 (1)		1		
紀 周 (3)	4			
勝 明 (1)				
神 の 島 (1)				
兵庫眞洲 (1)				
芦 ノ 郷 (2)				
本 明 勇 (2)	1			
明 道 (1)	2			
芦 東 (1)			1	
和 鎮 (3)		2		
神 滝 本 (1)				
芦 明 徳 (1)				
眞明彰化 (2)	9	5	3	
本 氣 (2)				
芦 明 照 (1)				
眞 伯 (1)				
合 計 (209)	42	25	11	7